

東日本大震災がもたらした被災地住民への影響 ～東京電力福島原子力発電所事故調査委員会による 避難住民に関するアンケート調査から～

中西 寛子 思考院 特任教授

【はじめに】 2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って生じた津波により、東京電力福島第一原子力発電所は、全電源を喪失し、原子炉を冷却することが出来ず、水素爆発が起こり、大量の放射性物質の漏洩を伴う重大な原子力事故となった。このため、福島県浜通りを中心に警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域などが指定され、周辺一帯の福島県住民は長期の避難を強いられた。

ここでは、東京電力福島原子力発電所事故調査委員会報告書(国会事故調査報告書、以下、報告書)の中の「参考資料第4部」にある「避難に関するアンケート調査」を分析し考察を行う。

【アンケートの概要と分析手順】

- ・報告書「参考資料第4部」-住民へのアンケート:自由回答欄の文面
「私ども国会事故調査委員会に対して、今のお気持ちを教えてください。」
- ・調査目的:避難指示・避難、原発の危険性に関する説明等の実態の把握
- ・調査方法:郵送アンケート調査
- ・実施期間:平成24(2012)年3月15日～4月11日
- ・調査対象:避難区域が指定された12市町村から避難した住民(約5万5000世帯)のうち、市町村別に無作為抽出された約2万1000世帯
- ・回収数(率):1万633人(回収率50%),うち8066人から自由回答欄への記述回答あり【内訳:双葉町(1,004),大熊町(1,219),富岡町(1,381),楡葉町(1,036),浪江町(1,532),広野町(751),田村市(300),南相馬市(1,640),川内村(700),葛尾村(328),川俣町(232),飯館村(397),不明(113)】

自由回答欄に書かれていた内容は、「自由回答から抽出された主な住民の声」として58項目の内容に分けられ、順位として1位より58位まで示されている(表1はその一部)。また、各12地域についても順位が示されている。ただし、各地域については上位20までのため21位以下の順位は不明である。全体の順位と12地域の順位とは異なることから、各地域において意識を異にする要因があると考えられる。

表1:自由回答のまとめ上位10項目(全体)

	件数	割合 (%)
1 事故の原因を早急に究明し、調査結果をすべて公表して欲しい。徹底した調査を望む。	1,120	13.9
2 政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。	909	11.3
3 補償に対する不満・要望	876	10.9
4 早く除染して、家・地元・故郷へ早く帰れるようにして欲しい	858	10.6
5 いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかははっきりして欲しい。(将来の見通しが立てられない)	836	10.4
6 事故後の対応が遅い、1年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。	820	10.2
7 東京電力が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。	628	7.8
8 国(政府・議員・自治体等)の責任を追及する、強い憤りを感じる、許さない。	610	7.6
9 東京電力の責任を追及する、強い憤りを感じる、許さない。	558	6.9
10 政府は避難者の実情や立場を理解していない、もっと知るべきだ。	544	6.7

自由回答における全体の順位の1位から21位までの項目について、各地域でわかっている項目の順位はそのまま数値として利用し、不明な項目はすべて22と数値化した。作成したデータを用いて簡単な比較を行ったところ、全体との違いがあまりないのが富岡町、大きく違っているのが飯館村であった。

【多変量解析による分析結果】

- ・手法:クラスター分析,主成分分析
- ・結果1:クラスター分析の結果
【浪江町,飯館村】
【双葉町,大熊町,富岡町,楡葉町,広野町】
【田村市,南相馬市,川内村,葛尾村,川俣町】の3群に分かれ、地図との比較では順に次のようになる(図1)。
【SPEEDIIによって汚染が明確になった地域】
【福島の第一または第二原子力発電所に近く、事故発生が3月11日の午後から夜にかけて東電職員により説明されている地域】※
【それ以外の比較的、福島第一原子力発電所より離れた地域】
※2つ目の地域については、東電職員により事故について説明され、避難に関する連絡があったことなどが報告書にある。



図1:クラスター分析の結果

このように、避難をした住民という同じ範疇であっても、自由回答にはそれぞれの地域の人々が置かれている状況の違いや、国や東京電力に対する気持ちの違いがあることがわかる。この違いをより明確に解釈するため、主成分分析を行った。

・結果2:主成分分析の結果

第6主成分までが抽出された。ここでは、第1主成分と第2主成分で絶対値の意味で高い得点であったものをそれぞれまとめ、第1主成分を「今後への不安、国と東京電力への怒り」、第2主成分を「安全神話の崩壊、情報への不信感」と解釈した。第1主成分得点と第2主成分得点によって布置された地域の図を作成し、先のクラスター分析の結果で分かった3つの群を囲んだ(図2)。

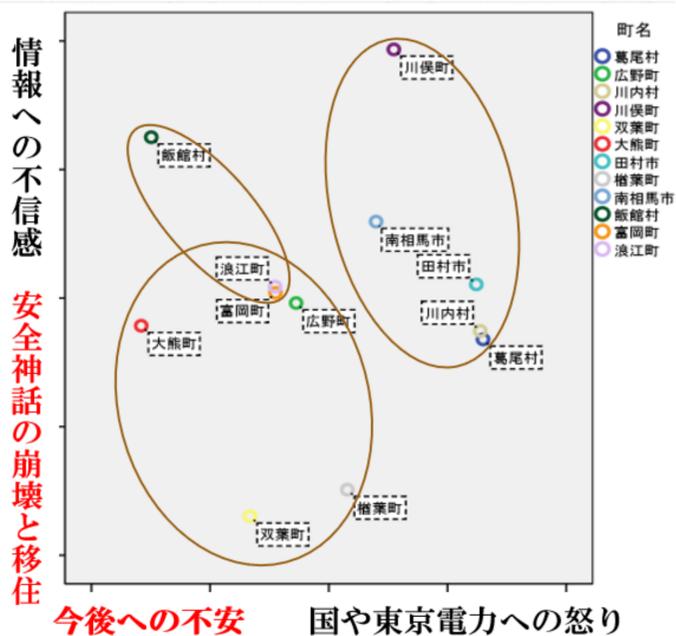


図2:クラスター分析と主成分分析による地域の解釈

【まとめ】 主成分分析とクラスター分析の結果から、避難住民の精神的な状況が3つの群によって異なることがわかった。特に、原子力発電所近くに位置する住民が他の地域より「今後に対する不安と移住」が強く出ている結果が見られた。

(学術の動向 2013年18巻7号 p.7_18-7_25より抜粋)